●「赤心」継がん
Dream 五代塾 Sinbun（新聞）
GodaiJuku
第17号
発行：Dream 五代塾
吹田市千里山西 5-14-17
発行責任者：理事長　川口 建

日本史教科書記述訂正問題
鹿児島県議会で藤崎剛議員が質問

Dream 五代塾顧問　八木孝昌

旧大阪市立大学関係者が中心となって結成した「五代友厚開拓使官有物払い下げ説見直しを求める会」が、高校日本史教科書刊行五社に対して五代記述の誤りを正すように求めていたところ、五社中四社が二〇二三年度の教科書の記述を改めました。この事実は朝日新聞・読売新聞・産経新聞・日本経済新聞・奈良新聞に大きく報道され、また関西テレビの報道番組でも取り上げられて、社会的認知を得るところとなりました。

このような動向の中で、本年六月二十六日、五代の出身地である鹿児島の県議会において、藤崎剛（たけし）議員が塩田康一知事に対して教科書記載変更に関する質問を行いました。藤崎議員は当選五回の実績をもち、「鹿児島と日本の伝統を生かし、未来を創造する」ことを基軸として活動する県政の中軸です。以下の県議会議事録の抜粋は、筆者が同議員に依頼して提供を受けたものです。

藤崎剛議員の質問

次に、五代友厚の教科書記載の変更についてお尋ねします。

我々が高校時代、教科書で習った官有物払い下げ事件。これは、明治政府により北海道開拓が進められましたが、政府が投資した工場など一式を、当時の北海道開拓庁長官の黒田清隆が、同じ薩摩つながりである商人、五代友厚に安くで払い下げたとされるものであります。

五代友厚は、一八三五年に鹿児島城下の城ヶ谷、現在の長田町で生まれ、薩英戦争のときにはスイカ売り決死隊に参加、薩摩藩英国留学生に選ばれ、串木野の羽島から渡航し、見聞を広め、帰国後は大阪商法会議所を創設するなど、大阪経済の父として知られています。二〇二〇年、三浦春馬が主演した天外者で映画化され、再評価の機運が高まっているところです。

藤崎剛鹿児島県議会議員

しかし、五代友厚の歴史的評価は芳しくなく、その原因は、この教科書記載によるものが大きいとされています。

鹿児島に関係する人物の教科書記載については、平成十八年、当時の伊藤知事が、西郷隆盛の教科書記載について、それまで、西郷隆盛が朝鮮半島に攻め入ることを論じたとされる征韓論とされていた教科書記載について、問題意識を持たれ、使いの者、すなわち使者を派遣する遣韓論ではなかったかということで、教科書会社に記載変更の要請活動を行ったことを思い出します。その後、複数の教科書会社が征韓論と遣韓論の並列表記に変わったことを思い出します。

現在の五代友厚の歴史教科書記載については、八木孝昌氏の研究により、事実誤認であることが証明されました。いずれも国立公文書館、国立国会図書館にて関連資料を探し、精査することで真実が明らかになりました。そして、事実誤認であるならば教科書記載の変更をするべきだと、大阪市立大学の同窓会を中心に署名活動が行われたのであります。私も百十名ほどの署名を集めてお送りしました。

全国的な要望活動が実り、このたび山川出版社、実教出版、清水書院、第一学習社の高等学校教科書において、教科書の記述が変わりました。ここでお尋ねします。

五代友厚について、歴史教科書での記載が変更されたことへの塩田知事の所感をお聞かせください。

二つ目、記載が変更された教科書を鹿児島県内の高校で使っているのかどうか、お示しください。

もし使っているならば、記載内容が変更になった旨の補足が必要かと思いますが、教育長の見解をお示しください。

塩田康一知事の答弁

五代友厚の教科書の記載変更に対する所感についてでございます。

五代友厚は、幕末にはパリ万博への薩摩焼等の出品を実現させ、薩摩藩の対外的評価を高めることに貢献し、明治以降は大阪株式取引所や大阪商業講習所の設立に関わるなど、大阪経済の興隆に奔走した人物であり、郷土の誇りであると思っております。

このたびの教科書記載の変更により、高校における歴史教育が客観的かつ公正な資料に基づいて適切に行われることで、多くの人々に郷土の偉人、五代友厚が正しく理解され、その歴史的評価が高まることを期待したいと考えております。

なお、この記載内容の変更は、五代が設立に関わった大阪商業講習所の流れをくむ旧大阪市立大学のOB等の活動の影響が大きいと伺っており、そのような活動をしてくださった大阪の方々に感謝申し上げたいと考えております。

（五代記載変更の教科書を採択した県立高校が三十五校であったとする教育長答弁は省略。）

五代評価の転換

五代友厚の認知度と人気は、地元鹿児島では従来それほど高いものではありませんでした。これには二つのことが作用しているように思えます。一つの理由は、戊辰戦争後の鹿児島で強い発言力のあった《武勲派》の人たちから見て、五代らの《文勲派》が新政府の要職に登用されていることが不評でしたが、そのような状況を受けて、五代が辞官後の明治二年末に帰郷し、身辺整理ののち鹿児島を離れたことです。二つ目は、日本史教科書等が五代について開拓使官有物払い下げを利用して金儲

けを企んだ《悪徳商人》のように記述してきたことです。五代《悪徳商人》説を《定説》として続けてきた日本歴史学界と、その《定説》を記載し続けてきた高校日本史教科書等の責任は重いと言わなければなりません。

五代無実を論証する諸研究書の刊行、テレビ歴史番組における五代無実の説明、映画「天外者」の上映、日本史教科書の記述変更、その記述変更を伝えるさまざまの報道、そういう世論形成のもとで、上記の鹿児島県議会での質問と答弁が実現したのでした。

藤崎議員の行き届いた質問に対する塩田知事の答弁は、簡にして要をえたものでした。同時に、「郷土の偉人、五代友厚」という新たな五代評価を地元鹿児島県議会に示したという意味で、画期的でした。「郷土の偉人、五代友厚が正しく理解され、その歴史的評価が高まることを期待したい」との答弁は、この間さまざまに積み重ねられてきた五代名誉回復活動に共通する願いの集約的表現でもありました。

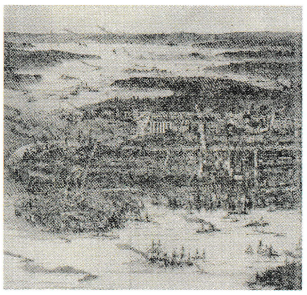
五代友厚の「直貿（じきぼう）」を具現化した兼松房治郎（中）

Dream 五代塾顧問　曾野豪夫

未知の国オーストラリア貿易

明治時代の前半期、多くの日本人にとって墺太利（オーストリア）も濠太剌利（オーストラリア）も未知の国だった。私は開戦直前の昭和十六年四月末にシドニーからの帰国児童で、神戸御影の国民学校二年生に転入学した。両国を即座に判別できない級友もいた。

兼松房治郎は大阪商法会議所肝煎、次いで大阪商船会社の創業時取締役を辞任して暫く休養したのち、経営難の大阪日報を買収した。社論や多くの記事も自ら執筆、編集し、印刷上がりの新聞の発送業務まで自ら督励した。ある日、論考を書くために石油ランプの許で資料を調べていると濠太剌利と日本の貿易が殆どないことが分かった。日本ではようやく綿紡績会社数社が明治十年来の政府直接保護を十九年に打ち切られて一人立ち始め、幾つかの新しい企業の進出機運も見られている頃だった。



明治21年（1888）のシドニー
Ashton, P. Waterson, D. B.
Sydney Takes Shape（2000）

「商館貿易」

維新後官吏、軍人、警察官、鉄道員、郵便局員、教職員、学生や一般社会人などの制服や洋服用の毛織物は輸入品に頼っていた。日本での毛織物の製造は明治八年に官営の千住製絨所が設立され、ほかに小規模紡績会社が数社あるのみだった。その羊毛原料の輸入は、毛紡績所から大倉喜八郎の大倉商会などが註文を受けて横浜居留地の例えばジャーディン・マセソン商会とかデント商会などのイギリス商館に発註する方式だった。殆どの外国商館では日本人は裏口からしか入館できず、しかも目の青い館長には会わせて貰えず、外国語に堪能な辮髪の清国人の買弁としか交渉ができなかった。（その交渉場面を想像して下さい。）日本から濠洲その他に輸出される米も欧米や清国の商館の手で行われている。

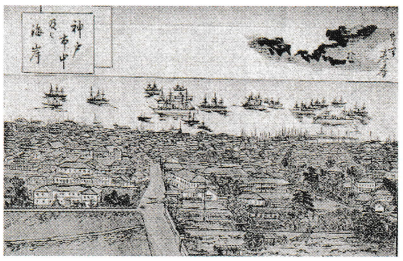
兼松が詳しく調べていると濠太剌利は世界最大の羊毛産出国である。維新後の日本の欧化主義の世情から見ると毛織物の輸入は更に増えることは明確だった。何しろ兼松自身が明治三年二十五歳の時に横浜で背広姿の写真を残しているのだから、時代の先が読める。（写真前号参照）

横浜のイギリス商館は受けた註文を英京ロンドンの本社に送る、本社はシドニーの関連会社に発註する。買い付けられた原毛はシドニーなりメルボルンの港からイギリスの汽船で本国のリヴァプール港に輸送され、中世以来の羊毛産業地マンチェスターで洗毛される。その洗上羊毛がイギリスの船でリヴァプール港からはるばる横浜港に送られてくる…為替の決済も同じルートで行われる…

日本の将来の洋風化と国益を考えると、日本とオーストラリアの直接貿易は必須の課題である。明治九年以来仕えた五代友厚の直貿易論は、幕末維新の頃からの自身の多くの経験（次号で紹介する）からも痛感していたことである。

「シドニー通信」

明治二十年、大阪日報を買収した兼松は数ヶ月後の十一月一日、経営を矢野亨（前大阪府立商業学校長）に託して神戸港からシドニーに向かった。乗船一ヶ月半後の翌十二月十三日早朝シドニーに到着した。神戸から書状で予約していたホテルは「空室がない」と断られ（理由はご推察通りである）、なんとか格落ちのホテルに投宿できた。早速入港時に船上からみたシドニー湾の詳細な観察と、シドニーの港湾設備の状況を歩いて調べた事項を、翌日大阪日報宛てに「濠洲斯士尼（シドニー）通信」第一報として書いて船便で送った。



明治20年代の神戸

兼松は、明治三年から二年間程横浜で英語を習ったが二十年間使っていなかったので、船の中で少しは勉強したことだろうがオーストラリア訛りは大変だったと思う。私は兼松を退職後五年間余り在京オーストラリア大使館で対豪投資促進顧問として勤務したが、今でも偶にオーストラリア人と話していて戸惑うことがある。

その後大阪日報に送信した多くの記事は各輸出入商品に及び詳細を極めている。例えば「昨年中に於て、当シドニー港に出入りした船舶の統計は、入港汽船一千六百六十五艘、此の噸数二百十万九千八百三十噸（一噸は大凡わが国三方匁四十個強に該（あた）る）、通常小舟六万三千四百十八艘にて、出航の汽船は千五百八十一艘、此の噸数二百五万四千四百十九噸、通常小舟五万四千二百二十隻なり…」。この調子でシドニーやメルボルンからの各商品ごとの輸出入噸数と金額の統計を詳細に書き連ねて大阪日報に船便を得て送った。メルボルンからは「メルボルン通信」として送った。私にはとてもまねのできない詳細な出張報告だった。また一般的な事項は「濠洲論」として発表している。

且つて幕末時代に、遣米欧使節団の派遣や長州藩の伊藤博文、薩摩藩の五代友厚などが欧州に密航した時のように、兼松も現地で港湾設備や近代倉庫などのほか、各地の裁判所、造幣局、郵便局、銀行、株式取引所、商法会議所、公立図書館、教会、病院、大学、博物館、牧畜場などを精力的に見学してその見聞録を大阪日報に送り続けた。日本にはない競売場（オークション）は兼松の生れる二年前に発足し、四十五年の歴史を有しており詳しく紹介記事を書いていた。

また西洋式建築物や住宅建築にも関心を寄せて記事を書いている。明治四十四年、神戸に洋式の事務所を建築（設計河合浩蔵）したのはオーストラリアで得た知見に基づくものだっ

た。（平成十五年、国の登録有形文化財に指定された。写真は次号に掲載する。）

兼松は濠洲と直接の貿易を開始しようと、私費で渡濠して調査しているのである。経営難の大阪日報の社主なので新しい世界の記事を現地から書き送ることは当然かも知れないが、微に入り細にわたって調査事項を万人に公開することは他人に塩を送っているようなものである。しかし、兼松は個人で集めた情報を国家と国民のために新聞紙上に七十七回にわたって公開したのであった。五代の心に通じるものがある。兼松は半年後の二十一年六月帰国した。

帰国して見ると、大阪日報は経営不振で三十日には休刊に入ってしまった。そこで新聞紙条例の規定により五十日目の休刊期限毎に納本用紙を印刷して命脈を保ちつつ、藤田伝三郎など旧知の友人から出資を仰ぎ資本金三万円の組合組織として、社名を変更した。十一月二十日「大阪毎日新聞」第一号が発行された。経営は組合委員たる兼松自らが当り、主幹兼任となって業務を統括した。その発行趣意書には、従来の新聞が「政治主義の争軋」に専らであるので、「不偏中立の実業新聞（ビジネスニュース）を発行して…商工実業者を誘掖開導すること」とし、「日々の物価表を詳載する」ことを表明した。

主筆には東京から小説『佳人之奇遇』（全八編）で文名高かった東海散士、即ち柴四郎を迎えた（軍人、小説家、衆議院議員）。兄柴五郎は、明治三十二年北清事変（義和団事件）の北京籠城で陸軍中佐として活躍した。のち陸軍大将。映画「北京の55日」（米1963、主演伊丹十三）。Colonel Shibaの活躍が三年後の日英同盟締結に貢献した、と言われている。（今年一月、日英円滑化協定が締結された。）

『英日同盟協約祝賀会』（京都）

日濠貿易　兼松房治郎商店

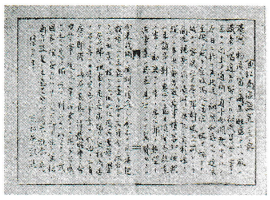
大阪毎日新聞社を本山彦一に譲り、兼松は日濠貿易会社設立のために資金集めを始めた。しかし未知の国との事業に積極的に出資してくれる人は少なかった。結局保有の株券、金融資産を売却し、大阪中之島に所有の土地一、八〇〇坪と自宅（現在の日本銀行大阪支店西側の部分で記録にはないが四年前に亡くなっていた五代の敷地に隣接していたと私は推測する）や玉江町の倉庫を売却して一万円程の現金を作った。

厚誼を得ていた住友家総代理人の広瀬宰平一〇、〇〇〇円、三井組銀行時代の恩人西邑馬四郎五、〇〇〇円、藤田鹿太郎二、五〇〇円など数氏から合計二万三千円程の資金を得て、明治二十二年八月神戸栄町通りに資本金三万円のささやかな会社を発足させた。

「日濠貿易　兼松房治郎商店」創業の主意書

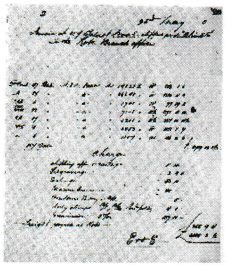
「…幸ニ此業ニシテ果シテ隆盛ヲ見ルニ至ラバ独リ我々ノ利益ナル而已ナラズ或ハ国家ニ裨益スルコトナシトセズ…」

最初の神戸の店舗は間口二間半、奥行き五間、建坪九坪余（三十平方メートル）の二階建て、それに約九坪の倉庫が付随して家賃が六円だった。当初は前年香港で知り合った青年北村寅之助（二十七歳）他一名。年末までには丁稚、小僧と共に九名となった。全員三食とも一回十銭の安弁当だった。子供のいない兼松夫妻は神戸花隈に小さな貸家を借りた。家賃九円五十銭。友人に「兼松君、狂せり！」、「成功せば船場を逆立ちして歩いて見せる」と言われたこと宜（むべ）なるかな、である。（記録にその人名が書いてないのは残念である。）


兼松商店設立主意書

翌二十三年一月十五日兼松は、香港で多少貿易を知り英語を解す北村を帯同して二度目の渡濠をした。船倉には大阪で買い集めた雑貨類、即ち陶器、漆器、竹器、燐寸（マッチ）その他日本趣味の雑貨類が積み込まれている。これらを有利売却して二人の出張旅費と神戸本店の従業員の給与などに充てなければならない。二月十七日シドニー港に到着、四月一日市内に事務所を借りて NSW 州に支店登記をした。代表者兼松（その後北村）。日本人として初めての登記であると信じられている。国情習慣も分からず、暗中模索ながらその月早くも濠州から牛脂二十九樽、牛皮三二一枚を輸出した。大阪毛糸紡績より註文を受けていた洗上羊毛一八七俵をシドニー競売場（オークション）で買付けて輸出したのは五月二十二日であった。これこそが日本人みずからの手によって日本向けに直接輸出された最初の荷口として日豪通商史上に記録的なものである。八月、兼松は後事を北村に託して一年ぶりに帰国した。

創業時の兼松房治郎と兼松商店


濠州兼松による最初の
Wool Shipping Invoice

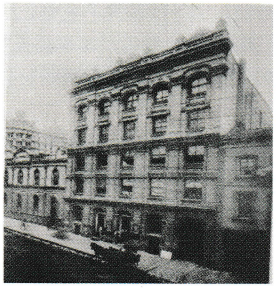
経済恐慌

兼松が貿易業を創業した明治二十二年から世界的に銀相場が高騰し、銀本位制の日本は翌二十三年、兼松がシドニーで支店登記をしている頃から金融恐慌をきたし経済が混乱した。このため、大阪毛糸紡績は解散したので太平洋を北上中の洗上羊毛は行き場を失った。

兼松は二十三年第二次、二十四年第三次渡航をした。それ迄は香港経由だったが、初めて英国籍のチャイナ・ナビゲーションの直行船を利用した。シドニーの丸の内とも言うべきオッコンネル街の一流ビルに数室を借りた。その後陣容も増え、大正九年建物が競売に付され兼松は大競合（spiritted bidding）して競落した。私の父はこのビルで大東亜戦争開戦迄十三年間勤めた。この建物は昭和四十年まで使用された。

明治二十六年から今度はオーストラリアが大恐慌に見舞われ、偶々前年からシドニーに第四次出張をしていた兼松は金融上進退窮まる状況に陥った。万策尽きて意を決して取引銀行の支配人におぼつかない英語で窮状を訴えて、救われた。

翌年二月神戸港に帰国した。颯爽とした洋行帰りの兼松を、と出迎えた友人はやせ衰え、見すぼらしい身なりの本人を見て或いは涙し、或いは頑固な彼をしばらく突き放しておこうと話し合った。二十七～二十八年の日清戦争後、日本は三十年から三十四年にかけて大恐慌に見舞われたが、横浜正金銀行神戸支店の支援で難局を切り抜けた。三十七～三十八年、日露戦争。兼松の陣容は五十名を前後するまでに増えた。


シドニーの兼松ビル

明治33年の兼松商店神戸本店の陣容。
東京支店にも10人ほどいた。

Dream 五代塾セミナー

第11回五代塾セミナー実施

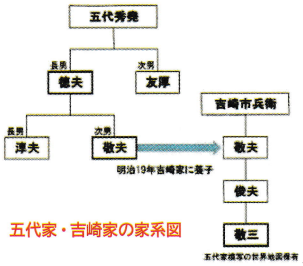
日時：2023年10月21日（土）14時～16時
場所：川口宅
勉強内容・進行（川口建）
教材：「開学の祖　五代友厚小伝」18話
（著者八木孝昌・非売品）
第1話「五代才助世界地図模写譚の真実」

私がこの世界地図を見たのは今から8年前になる2015年11月27日、大阪府寝屋川市在住の吉崎敬三氏に見せて頂いたのが始まりです。京阪電車天満橋駅ビルの喫茶店でお会いし、持参の世界地図を開こうとしたが、あまりの大きさ（縦100㎝×横200㎝）と破れてしまいそうな古紙（一部穴が開き折り目が今にも破れそう）であり、喫茶店の小さなテーブル上では広げることができず場所を変更し改めて拝見しました。

地図を広げその大きさと緻密に描かれていることに驚きました。また、五代家の人々（五代友厚も）が触れていた地図に176年の時を超え、自分の手に取って拝見した時の興奮は今でも忘れられません。

曽野豪夫氏、小久保芳典氏
2015年11月27日　川口建写す

吉崎氏のお話では、仏壇の引き出しに代々大切に保管していたが、どのような由来がある物かは詳しくは解っておらず、この年の秋（2015年）から始まったNHK連続テレビ小説「あさが来た」の五代友厚（五代役：ディーン・フジオカ）の登場で、もしかしたら！深い関わりがあるのでは、その事実が分かるのでは？、と問い合わせてこられたそうです。



後、鹿児島県の吉満庄司氏（当時鹿児島県知事公室政策調整課）に分析依頼した結果、世界地図の左側に継ぎ足された父五代秀堯の添書きにより五代家が描いた地図に間違いがないことを確定し、翌年の『鹿児島史学2016年第62号』に研究論文（五代友厚の開明性を育んだ家庭環境―五代友健模写の「新訂万国全図」を中心に―）として発表して頂き、広く世に知れ渡ることとなった。

五代秀堯の添書きによると（後半部分より）
「・・・（省略）正確に世界各地が収められている。地名も記載されていないものは何もない。私が見た所、これが最良の世界地図である。であれば、どうして模写をつくって、座右に置かないでいいことがあろうか。そこで息子の友健（徳夫）にこれを写させた。友健は喜んでこの命令に従い、図と文字を模写した。今年の秋の9月1日から仕事を初めて、晦日に至る約30日間で仕上げた。四隅の小図は本田氏出身の妻やすが模写した。妻はこれを表装して当家の所蔵品とした。友健は13歳。模写地図を見る者はその精緻さに感嘆して神童だと称え、大人でも及ばないとした。そういう模写が実に子供の手によって成ったのである。今、西洋人が皇国を窺っていると聞く。兵法は、相手を知り己を知ることを第一とする。世界の情勢をそらんじるほどに知るのでなければ、どうして敵の状況を知って勝利することができようか。計りごとの始まりはまずこの地図を見て調べることにあるのである。
天保十年十二月　五峯山人　五代秀堯識す」

一方、五代友厚の伝記は数多く発刊されているが、「世界地図の模写」に関する記述はほとんどが以下の通りである。
「五代友厚の父親である秀堯が、藩主島津斉彬より海外から入手した世界地図の模写を命じられ、14歳の友厚がこれを二枚書き写し、一枚は藩主に献上し、もう一枚を手元に置いて毎日これを眺めながら世界に目を開いた。」

五代家における世界地図模写はフィクションではありませんでした。兄が行った仕事を、片岡春卿が弟の仕事にすり替えてしまったのです。しかしながら、幼い友厚（満4歳）が両親や兄を含め家族総出の作業を一ヶ月間眺めていたことは、五代友厚の将来に大きな影響を与えた世界地図であったと想像ができる。

メキシコ湾フロリダ半島辺りの拡大写真

この片岡春卿『君伝』の発刊は明治28年。五代徳夫は明治28年12月4日に歿している。おそらく徳夫はこの『君伝』を目にしていなかったと思われる。しかしながら、今、真実が明らかになったことは関係者にとって喜ばしいことでしょう。（川口建）

第12回Dream五代塾セミナー開催

日時：2023年12月16日（土）14時～16時
場所：川口宅
勉強内容・進行（川口建）
10月セミナーに引き続き、教材：「開学の祖　五代友厚小伝」18話（著者八木孝昌・非売品）の第2話「英君島津斉彬と長崎海軍伝習所」です。
年末お忙しいと思いますが、スケジュール調整できる方はご参加ください。尚、メール又は電話での事前連絡をお願いします。

編集後記

兎年がピョンピョンと早く過ぎ、来年は何かをつかみ取りながら上昇する勢いのある辰年です。Dream五代塾はお陰様で来年は4年目を迎えることとなりました。

塾の立ち上げ後３年を振り返るとコロナの３年といっても過言ではありませんでしたが、皆様のご協力もあり当新聞「Dream 五代塾 Sinbun」も第 17 号まで発刊できました。また、今年の出来事は、五代友厚に関しては開拓使払い下げ事件の名誉を回復し教科書の修正がされたこと、私達の活動としては4月23日に『新・五代友厚伝』著者の八木孝昌先生と映画「天外者」の田中光敏監督とのコラボレイション企画を実施し、大勢の皆様方と有意義な時間を共有できたこと、また座学の継続的開催がスタートできたことでした。

会員の皆様の応援のお陰と深く感謝しております。来年も倍旧のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。そして、皆様方からの記事（ゆかりの地訪問記など）・ご意見など是非よろしくお願い申し上げます。よいお年をお迎えください。（川口建記）

（連絡先：川口建）　Email:gogoken12345@gmail.com　Tel：080-4497-5688
HP:https://www.dream-godai.com